

1 パブリックコメント(意見募集) 結果

「大館市子ども未来応援計画」(案)についての意見募集(パブリックコメント)の結果は、次のとおりです。

- 1 募集期間：平成30年3月5日(月)から平成30年3月16日(金)まで
- 2 資料閲覧場所：大館市ホームページ、大館市福祉部子ども課、比内総合支所市民生活係
田代総合支所市民生活係
- 3 意見提出方法：郵送、ファクス、電子メール、直接持参
- 4 意見提出者数：2人
- 5 意見件数：5件
- 6 意見の内容と市の考え方

意見 No.	意見の内容	市の考え方
①	<p>・P7～8の(3)要保護・要保護児童。生徒の状況(就学援助のグラフ) P8のタイトル「要保護児童・生徒の状況」に「要保護児童：生徒の状況(生活保護)」と表記すれば良い。(市民には「準要保護」と「要保護」の区別は困難だと思います。)</p>	<p>・P8 要保護児童・生徒を要保護(生活保護)児童・生徒という表記に修正いたしました。</p>
②	<p>・P19 教育の支援中に「◇奨学資金」を加えるべきだと思います。P27に奨学資金が掲げられていることと、就学資金の問題は貧困の連鎖防止には重要だと思いますので。</p>	<p>・奨学資金が重要というお考えに同感です。基本施策には、具体的な事業名ではなく、事業を活用した支援の施策名を挙げております。ただ、奨学資金制度は、「就学支援の推進」と「高校・大学等進学に対する教育機会の提供」の項目2つに関係する内容ですので、P26とP27の両方に掲載するように修正いたしましたので、ご理解ください。</p>
③	<p>・P28の学生寮の対象が短大専となっていますが、大学は対象外でしょうか？</p>	<p>・短大・大学・専修学校の「短大専」でしたが、分かりづらい表記ですので、「短・大・専」に修正いたしました。</p>
④	<p>・P35「2 大館市のコーディネート力の強化」中「積極的な研修への参加」とありますが、P15の「子どもに関する相談」で「相談機関へ行きづらい、相談しにくい18.3%」の関連をどう考えますか？アンケートの自由記述に複数あったように「相談相手の人権侵害」など、明らかに相談に対応する者としての資質を欠く職員の意識転換をどう図っていくのかを考えると、「積極的な研修への参加」について、今一歩具体的に踏み込んだ記述が必要かと考えます。その記述を根拠にすると職員の人権教育を展開しやすくなるのではないのでしょうか。児童相談係が主体的に人権教育研修を開催できると思います。</p> <p>私は「計画の実効性」を訴えてきましたが、それは「どんな立派な設計図を書いても、実行する職員さんが理解していなければ図面通りには行かない」懸念からです。それはアンケートで見事に実証されていました。その意味で相談を受ける人の人権尊重感覚は「要」です。</p> <p>関係機関がすべて相談者の親身になって対応する文化ができることが、この計画の命運を分けていると思います。よろしくお願い申し上げます。</p>	<p>・職員のスキルアップを図ること、人権教育を学んだ上で、相談業務にあたることは大変重要だと考えます。</p> <p>ご指摘のあったような対応は、あってはいけない対応です。当係での専門職(社会福祉士、心理士及び相談員)はできるだけ様々な研修に参加するように、また、自らの研鑽はもちろんです。学んだ知識を共有し、関係機関のスキルアップを図るためにも可能な限り、研修会を企画するよう努めてまいります。現時点で、今後参加できる、または開催できる研修名が決まっていないため、具体的な表記ができませんが、研修に関する積極的な情報収集に努め、支援のネットワークに関係する皆様に提供していきたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。ご指摘の「人権」については、とても重要なことですので、下記のとおり表記を追記いたしました。</p> <p>P35 2大館市のコーディネート力の強化 「～そして、<u>相談や支援提供にあたっては、対象者の人権を尊重し、対象者に寄りそう気持ちを第一に、よりたくさん支援を～</u>」</p>

意見 No.	意見の内容	市の考え方
2	<p>① 「全ての子どもたちの夢や希望を応援できる地域社会の実現を目指す」大館市の取組に感謝いたします。さて計画案を拝見して疑問に思ったことがあります。肝心の「子どもたちの心」に寄り添っている部分がほぼ感じられず残念に思います。</p> <p>私は平成 28 年度から大館市内の小学校・中学校に外部講師として出向き、児童生徒が夢を描く「ドリームマップ授業」を開催しています。ドリームマップ授業は、主体的に生きる力を育み自己肯定感を高めるキャリア教育ツールとして全国的に学校への導入や普及が進んでいます。この授業は自己理解から始まり、夢のタネさがしをしてドリームマップ（夢の地図）を作成するだけではなく、発表しお互いに応援しあうという丸一日じっくり 6 時間目までかけて取り組む内容です。</p> <p>現在、大館市の全ての子どもたちは夢や希望を描いていますか？まずはそこからスタートしてはいかがでしょうか。夢は目的です。目的を設定すると自ずと「行動」が生まれます。この夢を描くことの大切さについても授業の中で伝えていきます。大館市内の全ての子どもたちに、まず一度はドリームマップ授業を通して、自分の心と向き合い夢を描く体験を一日も早く届けられることを切に願います。</p> <p>そして、子どもたちが自らの力で夢を描いたその後は、その夢や希望を応援する地域社会の環境づくりが大切だと思います。そのためには子どもたちの夢を否定せず、まずは受け止める（受け入れるではありません）大人の姿勢が大前提となります。子どもたちの身近にいる大人は限定されています。家庭や学校での大人の何気なく発した「お前にはムリ」「そんなのムダ」等そのひとことが子どもたちにとっては大きな影響を与えていることに、大人が気づかなくてはなりません。いったん子どもの気持ちを「そうなんだ！」と受けとめることが当たり前となる社会を目指していきましょう。このことは大人同士でも良好な関係を築く第一歩になります。家庭や職場でも、まずは相手を尊重し認めて受けとめることが、夢や希望を応援できる地域社会を実現できると思います。またそのような地域社会になることが私の夢です。</p> <p>私は子どもたちの無限の可能性を信じて心から応援しています。大館市の未来を担う子どもたちをあたたかく見守り応援する大人が大勢いる大館市にしましょう。実現に向けてお役に立てることが必ずあると思いますので、ぜひご協力させていただけたら幸いです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが夢や希望を持って成長し、未来に向かっていけるように、環境の整備と家庭の事情に左右されない社会を作っていきたいということが、この計画策定の始まりであり、夢の実現には「教育が大切」であることは間違いのないことだと考えております。 <p>お話にありますドリームマップ事業も、その「大館ふるさとキャリア教育」の中で行われている事業の一つだと認識しております。</p> <p>本市教育委員会では、ふるさとに生きる基盤を培うふるさと教育と、その基盤の上に自らの人生の指針を描くキャリア教育を融合させた「大館ふるさとキャリア教育」を教育理念として、乳幼児期から大学まで学びをつなげ、子どもたちの多様な可能性を広げる教育を実践しています。</p> <p>全国学力・学習状況調査での質問において、「将来の夢や目標がある」に対し、「あてはまる、どちらかといえばあてはまる」と答えた本市の小学 6 年と中学 3 年の割合は、それぞれ 93.4%、79%と全国平均を上回っていたことから、7 年を経過した大館ふるさとキャリア教育の手ごたえを感じています。子どもが自分自身の夢や目標に向かって進むとき、一番の理解者であり、支えてくれるのは家族です。今後は、ふるさとキャリア教育の理念を保護者にも理解していただき、子どもの思いを尊重し、後押ししてもらえよう、進路や地元企業、奨学金等の情報を十分伝えていくことが必要であると考えています。また、家庭だけではなく、市民全体で大館の子どもを大切な人財として育てることに携わっていく機運を醸成していくことも重要と捉えています。</p> <p>このたびの計画策定を契機に、「すべての子どもが夢と希望を持ち成長できるようみんなが寄りそい支えるまち」の実現を目指し、計画の推進に当たってまいりますので、今後ご支援くださいますようお願い申し上げます。</p>